

八王子消化器病院ニュース

第69号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

— 患者様のための医療 —

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL : 042-626-5111

www.hachiojishokaki.com

制作 (株) 教育広報社

おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



年頭のご挨拶

八王子消化器病院 理事長
原田 信比古

2021年、新しい年が幕を開けました。明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中が振り回された1年でした。その脅威は現在もさらに勢力を増して拡大しており、私たちは長年慣れ親しんできた生活習慣や環境、積み重ねてきた人間関係にまで変化を強いられた年でした。昨年の今頃は名前すら知らなかったこのウイルスによって、1年後にこのような世界になっているとは誰も想像することは出来ませんでした。イギリスの動物行動学者、リチャード・ドーキンスの著書「利己的な遺伝子」に「生物は遺伝子の乗り物にすぎない」という説がありますが、ウイルスも生命(種)を維持(保存)するために、次々と宿主(しゅくしゅ)を乗り換え、時には遺伝子を変異しながら世界中に広がっていきます。爆発的な感染拡大(パンデミック)も感染症の世界では珍しいことではありません。何しろ「人の盾」の中で伝播していくのですから、制御することは極めて困難です。

1年前の本紙面では、「今後5年間で医療界は大きく変わる」と申し述べましたが、それは2025年問題と言われる「超高齢社会」への対応と、前年に厚生労働省から発表された「医療の効率化・病院の統廃

合」を意識したものでした。2019年9月、厚生省は都道府県ごとにまとめた「地域医療構想」の一環として、全国1,652の公立・公的病院のうち1,455病院について、がんや救急医療などの診療実績を分析し、手術件数などが一定水準未満の病院のほか、同程度の実績の病院が近隣に複数ある場合も統廃合の要請対象と公表しました。当院もその例外ではなく、再編のあり方は統廃合に限定せず、病床数の削減、診療科や病院機能の集約化など地域の実情に見合った形となるように区域ごとの議論に委ねるとして、医療の効率化が進められてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症という未曾有の大災禍に直面した今、その議論は全く消え失せ、政府は病院病床と医療従事者の確保に奔走しています。また、昨今話題になっている保健所についても、1995年に「地域保健法」が施行され、従来は10万人に1カ所とされていた保健所所管区域の見直しが行われ、1994年当時625カ所あった都道府県保健所は、26年後の2020年には355カ所に削減され(約43%減)、保健所の統合・再編が進みました。しかし、ひと度、今回のような事態に見舞われると縮小した体制では対応しきれず「効率」という名の下に、極めて

脆弱な体制を作り上げてしまったと言わざるを得ません。今、私たちが突きつけられている新型コロナウイルスの脅威は、これまで社会が最善としてきた「効率」と正反対の対応を迫られる災害や緊急事態に対し、どのように対処するかを問うています。今回、気付かされたことは「効率」こそが最良の方法と信じ、人間の力ですべてを制御出来ると過信していたこと、そして、こんなにも大きな脅威と常に背中合わせに暮らしていることを忘れていたことではないでしょうか。新型コロナウイルスがもたらした非日常は、普段、私たちが敢えて触れないように避けてきた問題に光を当て、浮き彫りにしているように思います。次々と状況も情報も移り変わる中で、すべての人が新しい生活様式を獲得出来たわけではありません。厳しい環境のなかで持っていたものを失い、何処に助けを求めたらよいのかも分からず、不安に揺れ続けている方もいます。医療の面では、コロナ感染に対する危惧から受診を控えたために他の重大な病気の発見が遅れ、治療開始が遅れた方もいます。当院では、院内の感染予防対策はもとより、感染対策のための面会制限など、患者様にも多くのご不便をおかけしています。今年一年、このコロナ感染がどのように推移していくのかを見通すことは出来ませんが、コロナ禍にあっても安心して受診していただき、消化器疾患の治療を必要としている患者様方に専門的な医療を提供できる病院として地域に貢献していく所存です。本年もよろしくご願ひ申し上げます。

もっと知りたい!

身体 治療 病気のコト

超音波検査について③

超音波検査で脾臓を診るために

生理学・超音波検査科 科長 富永 晋

前2回に亘り、当院の専門とする腹部の超音波検査について概説いたしました。今回は、その中でも特に検査技師の技量で画像の善し悪しが左右される「脾臓」を観察するために取り組んでいることについて、ご説明いたします。

本誌を定期的にご覧の方でしたら、当院脾臓病センター長の今泉俊秀による連載記事「脾臓病講座(第54号〜第62号:全9回 バックナンバーは当院ホームページから閲覧できます)」をお読みになっているかと思いますが(脾臓の病気や治療法については、そちらに詳述されています)。その中で、脾臓病を見つけるための検査法は「機能的検査法」と「画像検査法(形態学的検査法)」に大別されると述べられています。腹部超音波検査は後者の1つであり、条件によっては脾臓病を捉えるのに格好の検査法と云えます。その「条件」の中で最も影響されるのが、脾臓を取り囲むように位置する胃や腸等の臓器に含まれるガスです。超音波は物質の中を伝わる音で、ガスに触れると散乱や拡散等を起し伝播しづらくなることから、画像を映し出すことが難しくなります。そのため腹部超音波検査では、この妨げになるガスをできるだけ取り除くことが肝要です。

以上を踏まえ「患者様方により良い条件で検査を提供したい」との思いから講習会等を受講し、以下の3走査法を取り入れました。

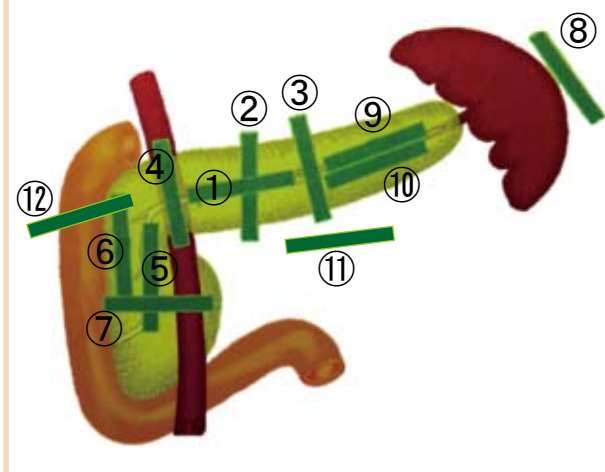
① 圧迫走査法・超音波プローブ(患者様の体に直接当てるセンサ。探触子とも云います)を他の臓器を観察する時よりも少し強く押し当てて、胃内等のガスを除けながら観察する走査法です。

② 飲水法・水50mlを検査時に摂ってもらう(胃内に溜め、それを通して胃の裏側に位置する脾臓を観察する方法です。因みに、他院ではミルクティー350mlを飲んでもらった上で検査する方法が増えており、大阪府立成人病センターの報告では、ミルクティーの適度な濁り具合が程良く超音波を通すとのこと。それでは、当院では何故ミルクティーではないのでしょうか。それは350mlという量も然る事ながら、その後に予定している他の検査、特に上部消化管内視鏡検査に影響してしまうという事情があります。そのため、職員に様々な飲み物を試飲してもらい検査を行った結果、辿り着いたのが水でした。

③ 体位変換法・脾臓は半座位(座ったよりも上半身をやや寝かせた状態)で観察しやすい臓器です。そのため、当院の検査台はベッドではなく美容室等にある電動リクライニングチェアを採用し、椅子を起こしたり倒したり、左右を向いてもらったりして検査を行います。

これらの試行錯誤のうえ、経験を積むことよって検査のスタイルを確立してきました。

また、左図の緑色の線は病変を見逃さないように、脾臓を観察するためのプローブ



ロープ走査の手順ですが、これに以下の自分なりの検査手技を加えました。

① プローブを患者様の体から離さずに最後まで観察する(離してしまうと一度除けた胃内等のガスが戻ってしまう)。

② 深呼吸や息止めの調整をしてもらう。これらの方法によっても、ガスが妨げになってしまう場合にはプローブを更に押し当てる必要があります。検査技師も脾臓を何とか観察したい一心ではありますが、強く押されて圧迫感があるときには遠慮せずにお知らせください。

以上の取り組みにより、当院で腹部超音波検査を受けられた患者様のうち、脾臓に何らかの所見があると診断された割合は、以前は5%程度(2008年度)でしたが、最近では25%(2018年度)と10年間で5倍に向上しました。また、脾臓が観察しづらかったケースは32%(2008年度)から18%(2018年度)に減りました(この中には止むを得ず食後や緊急で行った検査も含まれます)。

以上のように、超音波検査において脾臓ほど検査技師を悩ませ、かつ技師のみでは良い画像を映し出すことができない臓器は外にはありません。また、確定診断には超音波検査のみでなく、他の検査結果も含めた医師の総合的な判断が必要となります。

より良い条件で検査を提供するために患者様方にもご協力をお願いすると共に「脾臓病が心配ならば八王子消化器病院で超音波検査を受けたら良い」と皆様からの評価を得られるように、今後も精進して参ります。

「ま・あ・か」

八王子市 在住

山田 恭之さん



69

「まさか」という言葉の意味を調べると、そんなことはある筈がないという気持ちを強める表現とあります。昨年の私は、まさにその「まさか」が心に響く一年となりました。

日頃より、友人としてお付き合いしている八王子消化器病院の大津事務長から、体調管理については度々アドバイスをいただいていたが、「自分が「まさか」病気になる筈はない」という甘い考えもあり、常日頃不摂生な生活を続けていました。その結果、2020年には年々増加していた体重が100kgを超え、自分でもそろそろ何とかしないと問題だと感じていた折、家族からも「いい加減、年齢を考えて身体に気を配った方がいいよ！今年の抱負は痩せること！」との叱咤激励を受け、ダイエットを強く決意しまし

た。夕飯時のご飯を控えることから始め、3か月が過ぎた頃には体重が95kgに減少し、結果が出ていることに嬉しさを感じるようになりました。

その頃、世の中は「まさか」の新型コロナウイルスが猛威を振るい、今までの日常生活が大きく変わり仕事もテレワークになる等、外出しない生活が当たり前になっていきました。コロナ禍で落ち込んでいた気持ちに少しでもプラス思考にするため、思わぬ時間のゆとりが出来たと考えるようにし、空いた時間でウォーキングを開始しました。食事制限と運動の効果もあつてか、職場の健康診断が行われる7月には90kgまでに減量することが出来ました。

それから1か月後、きつと良いであろうと期待をしていた健康診断の結果表が届きました。「体重改善…○」「中性脂肪…

○」「肝臓…○」「尿酸値…○」と、すこぶる良好な結果に少し気分が良くなっていったところにHbA1cの数値が倍になっていたとの「まさか」の結果が目にとまりました。「HbA1c?なんだそれ？」程度の気持ちでしたのですが、一先ず大津事務長に相談をしたところ、直ぐに八王子消化器病院の糖尿病専門医である松下先生をご紹介いただきました。同院で再検査を受け、先生から告げられた検査結果は「糖尿病ですね」とのこと。今までの自分の人生で一番の「まさか」が現れた瞬間でした。検査値に基づいて判定された訳ですが、自覚症状も無いうえ、自分は大丈夫」と過信をしていたこともあり、はじめは素直に聞き入れ難いと云いますか、理解するのに少し時間を要しました。その時、松下先生や大津事務長、更には久野顧問までもが、親身に声を掛けて説明していただいたお蔭で病気であるとの自覚が出来たと思っています。

その後、松下先生の勧めもあり今後の治療を行う上で必要な検査や生活指導のため、先生の勤務される東京医大八王子医療センターに2週間の教育入院をしました。入院中には、精密検査の合間に生活習慣や糖尿病

の知識、食事の摂り方および栄養学、睡眠、運動エクササイズ等、多くのことを学ぶ機会があり、非常に有意義な時間を過ごせました。精密検査の結果、正式な病名は『緩徐進行1型糖尿病』と分かり、現在は八王子消化器病院で治療を行っています。インスリン療法による厳格な血糖コントロールが重要とのことですので、日々健康を意識した生活を送っています。また、情報社会の現在では、インターネットでキーワード検索をすると、同じ病気で明るく前向きに生活改善に取り組まれている方々が数多くいることが分かり、大変に勇気づけられました。これからも食事療法と運動療法を明るく楽しく継続していきます。もう「まさか」は繰り返しません。

最後に、私の病気の診断から



勤務中も出来るだけ自転車移動しています

治療を通じて、お世話になった先生をはじめ、看護師さん、管理栄養士さん、薬剤師さん、理学療法士さん等、各専門分野の方々が、医療チームとなり患者さん一人ひとりに携わっている姿に非常に感銘を受けました。特に現在のコロナ禍において、医療従事者および関連業種の皆様には、心から敬意を表するとともに、深く感謝いたします。このパンデミックを皆で協力して生き抜くために、まずは自身自身の行動を律していきたいと強く思っています。日本および世界中で新型コロナウイルスが一日も早く収束し、良からぬ「まさか」が起きない世の中となることを祈ります。



自宅のお稲荷様の手入れも欠かしません

八王子市胃がん内視鏡検診のすすめ

(本年度は市内 25 施設) で実施されていますが、その指定には消化器内視鏡等の専門医資格の保有や一定数以上の上部消化管内視鏡検査実績等の基準を満たしていることが求められます。八王子市の各種健(検)診の取り組みは、他自治体のモデルケースとなる程に質の高いものであり、当院も八王子市医師会を中心とした“チーム八王子市”の一員として制度開始当初から運営に携わっています。

当院での過去2年間(2018年度・2019年度)の実績をみますと、2,306件の検査を行い、1,144件に何らかの所見があると診断しています。その内訳は表①の通りで、がんに限って言えば約120人に1人の割合で見つかったことになります。因みに、この割合を同検診の対象者50歳から77歳までの八王子市の人口(約20万人)に当てはめると、実に1,600人以上の方で、がんが見つかる計算になります。

表①：当院における八王子市胃がん内視鏡検診の実績

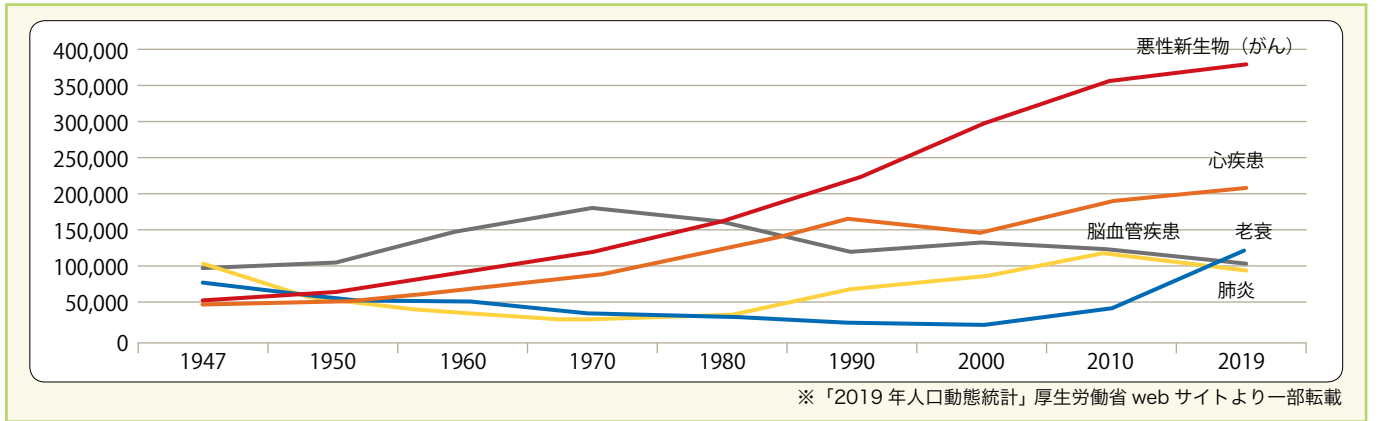
※2018年度・2019年度

検診件数	2,306件(男性:944件 女性:1,362件)	
有所見例	1,144件	
疾患別内訳	萎縮性胃炎	1,048例
	胃潰瘍	77例
	胃がん	16例
	食道がん	3例

また、国の統計をみると悪性新生物(がん)で亡くなった方は、1981年に死因の第1位となって以降、38年間の長きに亘り一貫して増加しています。最新の統計では、第2位以下(心疾患:207,628人、老衰:121,868人、脳血管疾患:106,506人)を大きく引き離し376,392人に上ります(表②)。これは診断・治療技術が年々進歩しているにも拘らず、我が国では“3人に1人が、がんで亡くなっている”ことを意味し大変に残念なことです。

そのため、がん検診を上手に活用して病気の早期発見・治療に繋げていただければ幸いです。

表②：死因別死亡者数



以上のことから分かるように早期発見が肝要ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により昨年4月に発出された緊急事態宣言下では、集団で実施する各種健診が延期・中止されたこともあり、同宣言解除後も受診控えの傾向が続いています。この状況を受け、厚生労働省では「上手な医療のかかり方プロジェクト」と題して、健康の維持・向上には定期的な健診と適切な受診が重要である旨の各種PR活動を進めています。特に、がんの場合は早期では無症状であることが多く、発見・治療の遅れに繋がることが懸念されています。

八王子市では当初2021年1月31日までとしていた、胃がん内視鏡検診の受診期間が本年度は2月13日まで延長されました。まだ検診を受けておられない方は、この機会に早目に受診されることをお勧めします。

■八王子市胃がん内視鏡検診

受診費用(自己負担額)	2,800円 ※生活保護を受給中の方および住民税非課税世帯の方(要事前申請)は無料です。 ※生検(組織採取)を行った場合は、別途費用(保険適用)がかかります。
検診の内容	問診、上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)
対象者	50歳から77歳までの方(昭和18年4月1日から昭和46年3月31日までに生まれた方) ※胃がん内視鏡検診の受診間隔は、2年に一度で前年度に市の同検診を受診していない方が対象となります。
受診場所	市内の指定医療機関 ※八王子市広報「検診ガイド」をご覧ください。
受診期間	2021年2月13日(土)まで
受診方法	・事前に電話等にて指定医療機関に連絡し、ご予約ください。 ・検診当日は、健康保険証・服薬を確認できるもの(お薬手帳等)をお持ちのうえ受診してください。

想うこと

玉手箱 海と空では 大違い
太郎は失意 はやぶさ夢を



小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウ由来のサンプルの入った玉手箱を、地球に届けるという快挙を成し遂げました。

10年前の「はやぶさ初号機」は7年の旅の後、満身創痍でカプセルもろとも大気圏に再突入。大役を果たしたものの、幾多のトラブルに見舞われた本体は、何とか辿り着いたという状態で余力は

無く、火球となって燃え尽きました。しかし、その健気な姿は人々に大きな感動を与えました。

今回、「はやぶさ2」は初号機の無念を晴らし、無事に大役を果たすと共に、その後再び新しい任務に向け、何事も無かったかのように11年の旅に出ました。

“おいちゃん、おばちゃん、さくら じゃ、また旅に出てくら〜” 事も無げに、フーテンの寅さんのように。
理事 久野久夫